時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報

第二千六百八十九號　水曜日
明治廿三年六月十八日（庚、午）
舊暦庚寅五月二日
日出 午前四時二十六分
日入 午後六時五十八分
月出 午前四時四十八分
月入 午後七時四十七分
滿潮 午前五時五十分
　　 午後六時十分
(西暦一千八百九十年)

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價郵送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

論爭の順序

衆議院の議場は如何の景況なるべきやとは尋常私席の間にも能く聞く所の問題にして或人の考に近來黨派の競爭甚だしき折柄その黨派が一堂に集會して相互に論難駁撃するに當り能く公平の道理を通用せしめて不都合なかる可きやと疑ふ者あれば又一方の説に今度の國會には政權を渇望して議論を好む士族者流が必定議員の多數を占むべきが故に現政府に對するの論鋒は着實なるべきや否やとて掛念する者あり彼の黨派爭論の事に付ては我輩は去る頃(五月五日)の紙上に於て政黨以外の政黨と題し黨派の爭をして其弊を逞うせしめざるには從來何黨派の肩書なき中立の議員が中間に立て中正を守り自由黨にも倚らず改進黨にも偏せず唯當不當、正不正を吟味して彼れ當を得れば彼れを助け、是れ正に中れば是れを友とし、一團中立の力能く黨爭を左右するの組織を定むるこそ妙なれと陳べたりしが今度に現政府に對するの論鋒如何に就ては我輩は衆議院の議員たる者が議論の通過し易きものと、通過し難きものとを區別し、易きを先にし、難きを後にするの心得あらんことを勸告するものなり顧ふに日本の代議制度は世界無雙の事情よりして極めて速成したるものなれば內情を解せざる外國人などより之を見れば民間、大に政治の思想を發達して民權の勢力溢れんとするの有樣なるよりして政府は舊株を維持すること能はず止むを得ずして其政權の一部分を圓滑に割與したることならんと想像するもあるべき歟なれども政府の實力は決して微弱なるにあらず又熱心なる政論家の數も固より全國一般と云ふに非ざるが故に政府が民間の議論を鎭壓せんとすれば甚だ容易なりと雖も其實は政府部內の內情よりして遂に今日あるに至りしことなれば人民は幸に參政の權を得たればとて其勢に乘じて一躍直ちに千丈の高きに達らんとするも中々に叶ふ可らず政府は唯政權の一部分を割愛したるのみ固有の實力を棄てたるに非ざれば民間論者の政論も容易に實効を奏す可きに非ず要するに徐々に歩を進む可きのみ即ち今日の時勢なり勿論議員とても現在の有樣を以て永く滿足すべしと云ふにあらず代議政體は名實ともに代議政體たらんことを希望する者なれども其これを實行するや自ら先後の順序なかる可らず我輩が前に議論の通過し易きものと通過し難きものとを鑑別すること肝要なりと云ひしは即ち此意に外ならずして今試に想像を描けば議員が議場に出づると早々先づ大體上より國會の基礎を完全ならしめんとして第一問題に憲法論を呈出し法理に問ひ學說に訴へて飽まで之を論爭するが如きあらんには我輩は其折合の圓滑ならずして百害惡の生ずるを先見するものなり元來國會の權力なるものは法文の如何によりて定まるよりも寧ろ實力の如何に由ることは之を歷史に徴するも明白なる次第にして英國の國會法の如きは殆んど不文に屬すれども猶は能く其實効を奏し獨逸の如きは文章整然たれどもビスマークの一喝以て國會を震動せしむるの常なりと云ふ之を兵法に喩ふるに法文に重きを置くものは地利を先にするが如く實力を主とするものは人和を專一とするが如し古今の戰爭に人和なければ地利も用を爲さずとの明證あれば實力に先ちて法文を論するの無用なるも亦明に見るべし世間に議論する憲法第六十七條の如きも(其解釋は何れにもせよ)全く衆議院に議權なきにあらず唯政府の同意を要するのみなるが故に事項により評議せんと欲するものあらば宜しく政府の同意を求むべし政府若し之に同意するを欲せずして飽までも法文を楯にせんとするときは假令へ此條を修正するも政府は又能く不認可權を利用するを得べし一條又一條殆んど際限ある可らずして要は實力の如何を顧みるのみ蓋し法文の働きは狹く實力の働きは廣ければなり然るを今の政論者が國會出席の勢に乘じ取敢へず法文を云々して國會の基礎を完全ならしめんと欲するに於ては爰に直ちに難澁を釀して恰も平地に波瀾を起すの觀あるべし波瀾を起すは猶は可なり之が爲めに當然議し得べき所をも倂せて失ひ盡し一も取らず二も取らず却て前途を誤まるに至らんのみ失計の甚だしきものと云ふ可し然りと雖も衆議院が成るべく實力を以て進み濫に完全を求むるに鋭ならざると共に政府に於ても充分に事情を洞察し法文を度外に置て所謂政治上の德義を守ること國の爲め又政府の爲めに得策なる可けれ若しも然らずして外面に代議の制度を許して內實に議會の權限を殺ぎ以て文明政道の觀を裝はんとすることもあらば我輩の筆法も亦必らず一變することある可きのみ

官報

朕明治十年第五號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治廿三年六月十六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

法律第四十二號

明治十年第五號布告ハ明治廿四年一月一日ヨリ之レヲ廢止ス

法律第四十二號參照

第五號布告（明治十年一月十七日）

一凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受タル者疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スル時ハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ル歟又ハ無届ニテ遲參不參スル時ハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○日本郵船會社命令書改正　逓信大臣より同社へ左の如く達せり（逓信省）

日本郵船會社

本月六日附請願ヲ聞屆十八年九月廿九日交付セル命令書第八條第二項第三項左ノ通改正ス

明治廿三年六月十六日　逓信大臣伯爵後藤象二郎

神戸下ノ關長崎釜山元山津浦鹽斯德間（毎年一月ヲ除キ）毎月一回
冬期浦鹽斯德結氷中ハ航海ヲ元山津ニ止ム
神戸下ノ關長崎五嶋對馬釜山仁川芝罘天津間　毎月一回
冬期天津結氷中ハ航海ヲ仁川ニ止ム

○外國米輸入額　大藏省關稅局ニ於テ調査セル前一週間（自六月八日至同月十四日）外國米三港輸入額ハ左ノ如シ（大藏省）

横濱	八三、八四五担	長崎	三、六二〇担
神戸	五八、六五四	合計	一四六、一一九

雜報

○醫用驗温器の出品者柏木幸助氏　從來本邦の製作社會の人には理化學等の思想乏しきより極めて單簡なる工藝品にても學術的の能力を要するものには未だ製造すること能はざるものあり則ち醫療に必用なる驗温器の如きも其一にて內國には其精巧正確なるものを製し得る者のなき事は皆人の知る所なるが山口縣下周防國三田尻町の柏木幸助氏は元來藥劑を以て營業と爲す人なりしが去る明治十五年二月大坂なる醫療器械商白井松之助の代理某が右の柏木氏を訪ひ偶然にも話の序に醫用驗温器は醫療器械中需用多くして損じ易きものなるが近來本邦人の醫療器械を製するもの少なからざれども未だ驗温器を製造する者のあらざるは頗る遺憾ありとの事を說話したりければ氏は精神一到何事か成らざらんやとて忽ち某に約するに他日を期して必ず此驗温器を製する事を以てしたり爾來精勵惰らず數多の理化學の書を閲讀するも皆單に學說のみにして毫も實際に適するものなく同年四月に至り一の硝子鎔融竈を築きて纔に試驗を行ひたるに稍得る所ありて聊か前途の方針も附きたる事なれば悅ぶこと一方ならず全く家事を抛ち種々に工風を凝らし刻苦勉勵すること一年餘即ち明治十六年六月に至り始めて通常醫用驗温器を製することを得たるに依り之を携へて大坂に至り白井松之助を訪ひ前年の代理某に面會して昔日の約束を履行したる事を示したれば某は大に驚嘆して深く其精巧なるを賞し直に白井氏と特約を結び向ふ一年間に製出するものは悉皆販賣せしむる事と爲したり右の如くして漸く望むの念を生じ頻りに留點製の驗温器を製する事を得たれば更に隴を得て蜀を企て焦心苦慮數回の試驗を經て明治十七年十一月に至り漸く之を製するを得たれば復た大坂に赴きて各醫科器械師に示し非常の賞讚を得たりしが其後益々丹精を凝して其改良を工風し須臾も惰ることなかりしかば遂に本邦中未だ曾て作ること能はざりし正確精巧なる驗温器を製するに至り去る明治二十年十一月自ら製する所のもの五個を大日本私立衞生會へ寄送して其審査を乞ひたりしに審査委員大澤謙二氏は定規驗温器に比較するに甲乙丙（大形留點驗温器）號共に留點正實なり丁號（小形留點驗温器）は水銀の昇降緩慢なれども凡そ十五分時間を經過するときは正確の點を指示す成績

（通常醫用）も
醫用の乾濕計
たりと云ふ

○青森縣の政
て黨派の競爭
近づくに從ひ
の撰擧人員及

第一區（東津
上北
下北
三戸

第二區（南津
北津

第三區（中津
西津

以上の各撰擧
て公然區內に
に在ては未だ
爲し居ると云
卓爾氏は工藤
らぬ盡力をあ
不折合の有
所にして縣會
て既に喧騷と
にも自稱候補
激烈なる競爭
補者たる神氏
に立ちたるよ
成を得たりと
し單獨の運動
なかるべしと
るを以て難れ
算の見込あり
して候補者と
ば今後如何の
と云ふ

○大儒スペン
ト　スペ
ンサー氏
の肖像と
なす氏は
近頃聯も
すれば病
魔の爲め
に老羸を
冒され其
學生の事

○農事教育會
年既に七十歳
業なる著述の
事となしたる
農事は純正科
事は學理の推
則か不釣合の
たらしむべし
殆んど農事と
もに大學に屬
如きは歐洲學
に於てとやと
したるものな
だ觀轟からさ